「4番、ピッチャー純」―。真夏の暑い日ざしが照りつけるグラウンドに響き渡る僕の声。少し恥ずかしかったけれど、アナウンス室からグラウンドを眺めていると、プロ野球を観戦したときの興奮がよみがえってきました。

けっこう難しいよ

初めてグラウンドに入りました

熱戦の"舞台裏"に密着！

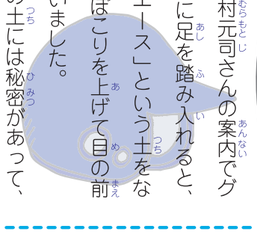
平塚球場を支える仕事にチャレンジ

プロ野球の公式戦や高校野球の大会などが開かれる平塚球場。選手が安心してプレーするためには、毎日のグラウンド整備が大切です。

僕は、数々の熱戦が繰り広げられる野球場の"舞台裏"を取材しました。

豆記者 岩出 純

務所の吉村元司さんの案内でグラウンドに足を踏み入れると、「サンドエース」という土をならす車が砂ぼこりを上げて目の前を走り回っていました。



グラウンドの土には秘密があって、フワフワしていました。

グラウンドを平らにならした後は、白線引きです。ピンと張ったロープに沿って、片目を閉じてゆっくりラインを引いていきます。吉村さんに「初めてにしては、うまい！」と褒められて、思わずニッコリ。

大きなボードでしょ！

高さ6㍍のスコアボードでは、選手の名前とチーム名を自分の背の高さと同じくらいのボードに白いペンキで書きます。スコアボードの高さと、文字の大きさにびっくりです。

舞台裏体験の締めくくりは、観戦スタンド。吉村さんは、「選手やお客さんが『平塚球場に来てよかった』と言ってくれたときが1番うれしい」と笑顔で話してくれました。グラウンドを吹き抜ける風に吹かれながら、試合を影で支える人たちの努力に感動しました。

まっすぐ、まっすぐ

バックスクリーンまで120㍍、ライト・レフトまでは91㍍の距離がある平塚球場。1万6000人分もの観客席がある大きな野球場です。総合公園管理事

うまい野菜のおいしい秘密

栄養満点カラダの味方

平塚市の水田の面積は神奈川県でナンバーワン！みなさん知っていましたか？今回僕は、神奈川県農業技術センターの農学博士・北宜裕さんにお話を聞いてきました。

豆記者 常世藤太郎

たくさん質問しちゃうゾ！

農業技術センターは、神奈川県の農業を開発し、それを広めるために建設されたそうです。ここでは野菜や花の品種改良、害虫駆除や新しい栽培法などを研究しています。センターについて説明を聞いた後、いよいよ僕からも質問です。平塚市の水田の面積が神奈川県一ということは知っていたので、米の収穫量も神奈川県一なのか知りたかったのです。すると北さんは、1冊の本を取り出しました。それは、神奈川県の農作物の統計が載っている本。収穫量はなんと…2880トン！ほかの地域と比べても平塚市より多い地域はなかったので、水田の広さだけでなく収穫量も県内で1番だということが分かりました。僕の通う城島小学校の周りには水田がたくさんあるので、とても身近に感じられました。

こ～んなお花畑もあったよ

次に、外に出て畑を見学させてもらいました。トウガラシ畑を見に行ったところで北さんが、「わたしは辛いの平気だからこのまま食べられるよ」と言って、生のトウガラシを食べてしまいました。僕にも「おひとついかが？」と渡されましたが、辛いのが苦手な僕は断りました。でも、「ちょっとだけ食べてみたら」と言われ、恐る恐る口に入れてみたら…あれ？　辛くない。というか、ピーマンみたい。これは辛くないトウガラシで、昔からあるものだというのでびっくり！　ほかに、角が全くないオクラの「丸美ちゃん」や細長い形をしたトマトSPLシリーズも試食。とってもおいしかった！

辛いの苦手なんだけど

普段家で食べているおいしくて、しかも栄養満点の野菜は、農業技術センターの人たちの研究のおかげなのだと分かりました。嫌いな野菜もあるけど、残さないで食べるように努力しなくっちゃ。

農業技術センターを取材してみて、ここはみんなの健康のために縁の下の力持ちの役割をしているんだなあと思いました。

トマトSPLシリーズだよ